

当報告の内容は著者の著作物です。

Copyrighted materials of the author

第4回（通算第17回）基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」公開セミナー

平成24年7月19日（木）15:00-19:00 AA研306号室

コモロ民話におけるモチーフ群のマイクロ/マクロな結合

小田淳一（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

コモロ民話の諸ジャンルのうち、所謂「昔話」に該当する物語群には幾つかの特徴的な登場人物（スルタンやジン、またトリックスターとしてのイブナシーヤなど）が出現し、様々な物語を繰り広げる。それらの物語は、幾つかのモチーフ単位の結合によって構成されているが、それらの単位としては、例えば、登場人物の類型化から導き出されたイーミックな単位としての「役割」の共出現、登場人物による行為を範疇化したプロップ的「機能」群の水平軸（連辞軸）上の結合、さらには、それらの「役割」や「機能」がテキスト表層で実際に語られる際の、登場人物の具体的な属性や、具体的な行為などのエティックな単位の、垂直軸（範列軸）上の選択による結合などがある。一方、イーミックな単位の結合は、集合表象を構成する物語内容レベルのマクロな結合であり、またエティックな単位の結合は、個人表象を構成する物語表現レベルのマイクロな結合であると見なすことが出来る。そして、モチーフ単位の結合には幾つかの傾向が明らかに存在する。本報告は、2008年以降インド洋西域の島嶼部で収集したコモロ民話から上記の登場人物が出現する36話を選び、そこに見られるイーミック/エティックなモチーフ単位群のマクロ/マイクロな結合を、クロード・ブレモンの物語分析モデルを情報生物学のツールを用いることによって援用し、系統樹上の分岐関係から捉えることを試みた。